

パールレース参戦記

ダンシングビーンズ 安藤

心配した台風は台湾を跨いで中国大陆へ上陸するようだ。だから天気は大丈夫、波とうねりが残りそう。案の定、波は悪いし、うねりもある。回航途中の伊良湖水道は荒れて叩かれた。大王に近づいた頃からやっと穏やかに。

明けてレース当日も五ヶ所の湾口には大きなうねりが南からやってくる。どうも湾内育ちにはこのうねりというのが肌にあわない、嫌いだ！変則なスタートから暫くは方向の定まらない風に翻弄されて仮想ポイントの回航もままならない。折角、昨夜貯めた体力は灼熱の太陽が容赦なく全身を焦がして急速に奪ってゆく。

早く陽よ沈ずめ！そう思いながらスピンランでやっと東に進みだした。AIS には未だ多くの船が周りに居るが、見える範囲では早い船は遙か彼方に消えていった。

時が経つにつれて我々の船団も東西に広がり生まれる。とにかく今回は一昨年の反省を踏まえて利島へのプロパーコースを細分化、南北の差を修正しながら進める戦略だ。辺りが闇に包まれると風が上がってくる。どうしても外洋を意識して今のうちにスピンをNo1に、そしてNo3にと早めの対処をする。当然、オールハンズで皆デッキにいる。

これは結構辛い戦いになるなと思い始めた。夜になっても押し寄せる大きなうねりは艇をプレーニングさせて前に押し出してくれるが、操船は難しい。この時点でマークする艇は皆南を進んでいる。浜松は越えた？御前はまだか？そしてあれは石廊か？と、進めるうちにうっすらと見えて来た利島を見つけたのは明け方だった。

南から多くのレース艇が利島目指してのぼってくる。利島は昼前には回航できた。大島ハイウェイは今回も健在で風も衰えることはなかった。予報では大島を過ぎると落ちるらしいが、この調子で行くぞ！

二日目の夕方を迎えるとやはり風は落ちてきた。スピンよりもジブだとセールチェンジが忙しい。江ノ島沖で海岸線をなだる様に行ったり来たり！同じような艇がここいらには数艇いる。辺りが暗くなって江ノ島灯台がハッキリ見えるけど陸はまだ遠い！過去、相模湾には何度も苦しめられた。初島、伊東、熱海とカームに捕まって格闘。江ノ島も同様、何度も長い間漂った。今回も思うように進まないイライラの中で僅かに漂う超微風に押しもらって23時09分フィニッシュ。

36時間もかかってしまった！江ノ島に上陸、シャワーを浴びて少し生き返ると 橋を渡って藤沢の磯料理屋で慰労会。帰りの回航メンバーも陸から帰るメンバーも始発を待つ為にカラオケ屋で仮眠を取った。

回航出発は7時、始発組と別れ再び蒲郡を目指して海に出る。御前崎までは順調だった帰路はここから様子が豹変。20ノットオーバーの向かい風が吹き出した。辛かったのは伊良湖岬、燃料が不安でスロットルを倒せない、No3で数回タックを繰り返してやっとの思いで半島を回るのに成功。

慣れ親しんだ三河湾に入りホッとしていると思わぬ出迎えを受けた。イルカの親子？夫婦？中配を越えてから西浦の手前までずっと併走。4日間まとともに寝てないので夢ではないと思うけど真夏の一大イベントの最後に海の幸福の使者に癒やされたパールだった。

